



西小だより

桐生市立西小学校
令和4年度
NO.6
令和4年8月25日

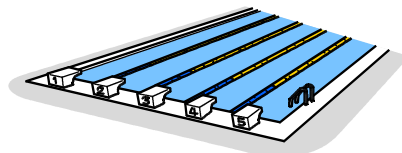


二学期 スタート



本日から第2学期がスタートしました。夏休み中は、いかがお過ごしでしたでしょうか。約4ヶ月の2学期を始めるにあたり、夏休みの生活を振り返りながらこれからの目標をしっかりと立て、お子さんが充実した学校生活や家庭生活が送れますように、保護者の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染症の第7波や猛暑の影響により、いろいろな面で心配事が多く、十分に満喫できたとは言えない状況であったかと思えます。残念ながらこの状況はしばらく続きそうではありますが、これまでと同様の感染症対策と熱中症対策を講じ、児童にとっての学校生活が充実したものとなるよう、職員一同全力で取り組んでいきます。運動会や修学旅行、宿泊学習、校外学習等、大きな行事をたくさん予定している2学期ですが、状況によっては日程や内容の変更等もあるかと思えますので、保護者の皆様のご理解をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。



「子育てって難しいなあ」と感じた出来事

かれこれ、今から20年近く前のことです。当時我が家には4人の小学生がいて夫婦共働き、多忙を極める日々の連続でした。我が家(妻)には鉄の掟がいくつかあり、そのうちの一つが「自分の箸は自分で洗う」でした。当時の小中学校は自分の箸箱を毎日持参し、家で洗ってくるのが日常でした。子ども達も遊びたい盛りの時期でしたから、私が家に帰ると、案の定、台所の桶の中には洗っていない箸箱がいくつか水につかっている日がありました。ある日のこと、ついでに自分の箸箱と一緒に子どものものも洗ったことがありました。すると妻が「何で洗ってあげるの?それって子どものためなの?」とすごい剣幕で詰め寄ってきました。夜も遅い時間だったし、子どもも眠そうだったので「ついでだから」と思ってやったことが、妻の逆鱗に触れてしまったのです。「自分のことは自分でやる。それ以上に、約束したことをしっかりとできる子になってほしい」妻の強い思いでした。

それ以来『「子どものために」はどこまで?』『「子どものために」はいつまで?』と考えるようになりました。「良かれ」が、結果的に子どものためにならないこともあることを意識するようになりました。

子どもは母親から生まれて間もなく、自立に向けて自分の人生をスタートします。そして、子どもはいつか親の手を離れて巣立っていきます。親が子どもに関われる時間は本当に短く、とつても貴い時間です。しかし、それと同時に、この短い時間は、我が子に何を学ばせられるか、何を身につけてあげられるかの大切な時間でもあるのです。

成人した我が子を思い浮かべ、自身の子育てを振り返る時に「あの時はあれで良かったのだろうか。」と反省にも似た気持ちになって落ち込むことがあります。「こうしてたらこうなっていたかも」と後悔の念に駆られることもあります。「子育てに正解はない」から難しい。一段落ついた今、しみじみと感じる今日この頃です。